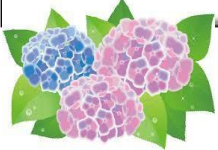




# 明化の教育

6月号（457号）  
平成30年5月31日  
文京区立明化小学校  
校長 溝畑 直樹



## 人権尊重教育推進校としての取組 — 人権感覚を磨く —

副校長 齋藤 道子

入学式から早2ヶ月が経ち、1年生も学校生活に慣れて、本領発揮とばかりに元気一杯に生活しています。また、6年生は最高学年としての自覚をもち、下級生のよき手本となって様々な場面で活躍しています。一人一人の小さな歯車がくるくると回り始め、学級、学年、学校が、さらには家庭、地域、学校という「チーム明化」の大きな歯車が、ぐるりんぐるりんと勢いよく回り出しました。

5月に各ご家庭に配布いたしましたリーフレット等で既に周知の通り、本校は、昨年度、東京都人権尊重教育推進校の指定を受け、校内研究を核として人権尊重教育の推進に努めています。

本年度は、2年目となり、昨年度の成果と課題を基に、引き続き道徳教育と人権教育を柱に（1）普遍的な視点（道徳教育）と（2）個別的な視点（人権課題）から研究に取り組んでいます。4月から5月は、6年・2年・3年・4年が道徳の研究授業を行いました。6年生と2年生は、「個性の伸長」を取扱い、生きる主体となる自分自身についての理解を深めました。3年生と4年生は、「思いやり・親切」を取扱い、相手の気持ちや立場を考えた「思いやり」や「親切」の大切さについて考えました。6月には、5年生が、「正義」について学んでいきます。



「自分も他の人も大切にされ、互いに尊重し合って共に幸せに生きる社会の創造」は、人類の長年の夢であり、ずっと追い求めてきた理想の姿です。グローバル化が益々進展する21世紀は、まさに子供たちがつくる世界です。誰にも等しく与えられている人権を大切にして、共に豊かに生きていくための素地となる人権感覚を今からしっかりと育てていきたいと思えます。

偏見や差別は、私たちの中に無意識的に取り入れられ、つくられていきます。ですから、自分を中心としたものの見方や考え方を、時には、様々な他者の視点から見つめ直して見る必要があります。人権尊重教育を通して「自己を見つめる目」を培い、様々な関わりや繋がりの中にある自己を常に意識しながら、豊かな共生社会のつくり手となってほしいと思えます。

6月16日（土）には、第2回目の土曜授業公開、ならびに道徳授業地区公開講座が開催されます。2時間目と3時間目のどちらかで全学級が道徳の授業を公開します。道徳的価値に照らして自己を見つめ、よりよい生き方についての考えを深める子供たちの姿を是非ともご参観ください。

また、4時間目には、体育館に児童、保護者、地域の方々、教職員が会して、講演会を開きます。東京都立大塚ろう学校の校長先生はじめ、各先生方から「聞こえにくさ」についての貴重なお話をいただきます。共によりよく生きるために大切なことは何かについて考えていきたいと思えます。

“自分も大事、他の人も大事”を合言葉に、明化小学校は、チーム明化でさらなる人権尊重教育の推進に努めて参ります。12月14日には、2年間の取組について詳しくご報告いたします。